

日交研シリーズ A-820

令和2年度自主研究プロジェクト

「持続可能な途上国都市の公共交通計画論に関する研究」

刊行：2021年11月

持続可能な途上国都市の公共交通計画論に関する研究

A study on planning theory for public transport in sustainable developing cities

主査：中村 文彦（横浜国立大学）

Fumihiko Nakamura

要 旨

本研究では、途上国の都市の持続可能性に貢献する公共交通の計画論を取り上げ、これからの途上国都市の公共交通計画の課題を明らかにすることを目的に研究を推進した。

具体的には、トムソンの交通戦略のレビューを起点とした都市構造と交通戦略の類型化と、特に途上国のための低コスト型モデルについての考察、ベトナムのホーチミン市での都市鉄道整備の現状及び TOD 実現における課題、JICA による東南アジア各都市での都市交通実態調査のデータをもとにしたトリップ特性比較分析、ラオスの首都ビエンチャン市の BRT 導入を契機に再編する公共交通システムの持続可能性の評価、タイのバンコクをケーススタディとした東南アジアの街路空間整備についての研究例紹介、以上をもとにした途上国都市公共交通計画の試論の検討を取り上げた。

キーワード 途上国都市 公共交通 TOD BRT 計画論

Keywords developing cities, public transport, TOD, BRT, planning theories